

肥後歴史散歩

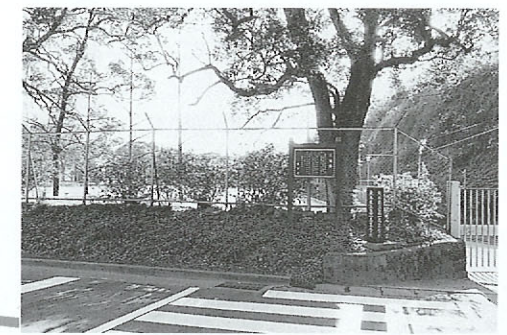
中世と近世の間に生きた城氏

南北朝から室町時代まで、肥後一國の領主として隆盛を誇った菊池一族。その一族は、山鹿、玉名など国内各地で城を構え、それぞれの領地を繁栄させてきました。それは、近世、近代へと続く「都」の基盤でもありました。今回は、隈本（およびその現在の熊本市）において、室町末期から近世まで生き延び、近世肥後國・熊本礎地を築いた菊池一族城氏の足跡を訪ねました。

近世への道程

中世末期、戦国時代。菊池宗家が衰退していく中で、一族として生き残ったのは、被官化した一族の有力者だった。中でも、菊池三大臣家の一つであった城氏は、天文十九年（一五五〇）、肥後守護となった大友氏から鮑田・託麻の二郡と隈本城を与えられ、大國人領主の立場を築いた。

天正六年（一五七八）大友氏が日向国耳川で島津勢に敗れると、城氏は島津氏の力を借りて大友氏の支配から離脱。一方、大友氏の力が弱ったと見て肥後への圧力を強めてきた肥前の童造寺氏に対しても、島津兵を肥後から引かせるのに一役買うなど九州の二大勢力（島津・童造寺）の拮抗の間で、あわよくば独立をと願ったのであろうか。



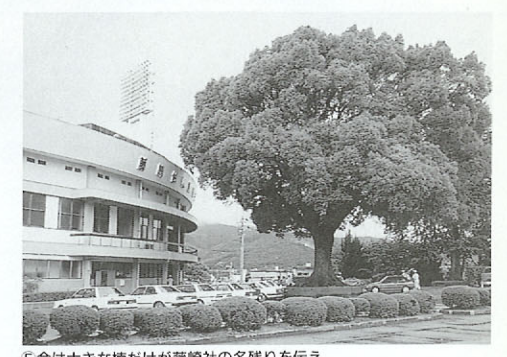
①隈本城跡 (県立第一高校)



③古い家並が残る新町



②新しいビルが建ち並ぶ中にも昔の面影が残る中唐人町通り (古町)



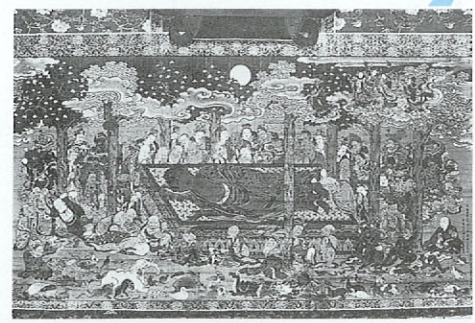
④今は大きな楠だけが藤崎社の名残りを伝える藤崎台球場



⑤城親賢が眠る岳林寺



⑥「親賢の墓」一延宝の頃 (1674年頃) 岳林寺に移転の際に建て替えられた



⑦妙永寺蔵涅槃図



⑧妙永寺
この辺りは昔、釈迦の命日に高麗門の市と呼ばれる大きな市があった。その際、周囲の寺が所持する絵巻物や書画が開張されていたという。今でも妙永寺をはじめ数件の寺が、釈迦の命日に絵巻物、書画を開張している。



⑨北岡神社 (祇園社)



天正九年（一五八一）、島津氏が相良氏を制し八代に進出すると、城氏は島津方につく態度を明確にする。しかし、天下統一を図る豊臣秀吉の九州征伐（一五八七）にあい、秀吉に隈本城を開け渡すことになる。国内に八百町の土地を与えられたが、大坂住みを命じられた城氏。その翌年には、肥後國衆一揆の影響で所領を筑後に移されてしまう。

そして文禄元年（一五九三）、城親基がこの地で死去。城氏の歴史はここで終焉を迎えた。宗家という柱を失い、時勢のままに生きるしかなかった城氏であった。

注釈
①被官化
下級武士が上級武士に下属し家臣になること
②肥後國衆一揆
天正十五年（一五八七）七月から約半年間にわたって肥後北東部の國衆が中心となり領主佐々成政に対して起こした一揆。原因は秀吉が三年間実施を禁止した検地を強行し、所領として認められた地を削減したとされた。

植木市生みの親

ところで、鹿子木氏の後に隈本城に入った城親冬の子、親賢（？）一五八一没。は、城下の住人友枝氏（能役者と伝えられる）などに「子息の慰みになる催しをするように」と、申し付けられた。そこで城下で初めて市が催されたという。当時の市では飾馬振、駒頭、雉子、または草花苗、植木苗などが売られ、所定の日に所定の地を巡回していた。このうち草花・植木苗が、近代に入って肥大化し、「春の植木市」へと育ったと推測されている。

それゆえ毎年一月の下旬、熊本市島崎の岳林寺で行われる親賢の墓前祭には、今でも植木市の関係者が必ず参詣。敬意と感謝を表し、市の成功を願うのだという。

古町と新町

さて、城下町の面影を残す新町（現熊本市新町一帯）と古町（現熊本市唐人町・細工町辺り）は、もともと祇園社（現北岡神社）、藤崎社（現藤崎台球場）の門前町として栄えた町である。両社は中世末（室町時代）、自ら社領を経営していた。その中で下級社家や神人らが同業組合（座）を組み、舞楽などの社への奉仕の見返りとして、社領内の産物の取収・放出を扱う権利を得ていた。そこで寺社周辺は物流の拠点となり、町ができ、商人でもある城下の住民（町衆）↓下級社家や神人の社会が育っていった。

城氏の居城隈本城は、祇園社の古町と藤崎社の新町、両方を抑えられる条件下に築かれていた。つまり両町には隈本城の城下町としての性格もあり、近世熊本の城下町の基盤が、この時代に形成されていたのである。



⑩本堂に収められている親賢像

戦前の植木市日程 (『熊本市史』による)

2月1日	新町1丁目 (初市)
2月3日	立町
2月7日	広町
2月8日	白川町
2月11~12日	水前寺駅通
2月15~17日	高麗門 (釈迦市)
2月21~22日	長六橋 (太子市)
2月23日	明十橋
2月25日	布屋町
2月28日	出町・京町
3月1日	現藤崎宮前
3月3~5日	三年坂
3月初午	砂取

（参考文献）「菊池一族」阿蘇品保夫著
協力 県立美術館学芸員 阿蘇品保夫氏
岳林寺・妙永寺・北岡神社